

プロ野球女性ファン文化の変遷 ～「ミーハー」ファンから「オタク」ファンの時代へ～

スポーツ文化研究領域
5011A075 - 3 村上万純

研究指導教員：石井昌幸 准教授

【序章】

プロ野球は、日本の代表的なプロ・スポーツとして長い歴史を持っている。そして、近年ではプロ野球人気を支える重要なファン層として女性の存在が目につくようになった。従来男性の領域とされていたプロ野球に、いかにして女性たちは参入していったのだろうか。

本研究ではこの問題をプロ野球と女性ファンの関係を編年的にまとめることで歴史社会学的な考察を行った。女性たちがプロ野球に何を求め、プロ野球を通して何を眼差ししていたのかを明らかにしていく。

【第1章】

プロ野球の歴史の概観を行い、その成り立ちをまとめた。日本の野球は学生野球を中心に定着していったため、プロ野球は当初人気がなかった。また、「職業野球」という名称で呼ばれ、むしろ偏見の目で見られてすらいた。

さらに戦前の数少ない観客は、そのほとんどが男性であった。戦後になると、プロ野球は巨人を中心とするセ・リーグを中心に「国民的スポーツ」として位置づけられるようになる。戦前と戦後において、日本人のプロ野球に対するイメージには断絶があり、スタンドに来ていた観客も世間的に良いイメージは持たれていなかった。

【第2章】

戦前から1970年代後半までのプロ野球ファンの女性の変遷を追っていく。戦前のスタンドには一部の限られた女性が数名見られる程度だったが、戦後になるとその様相は一変する。1958（昭和33）年にはアベックを中心にナイター・ブームが起こり、一般家庭の女性や女性同士で球場に来る姿も見られるようになった。皇太子の御成婚やプロ野球界自体の盛り上がりなど、若者の間で自由恋愛の気運が高まったところに、ナイターがデートコースとして認知されるようになったのである。

そして、戦後はラジオに代わってテレビが主要なメディアとなり、プロ野球の様子を全国のお茶の間に届けた。また、このころには巨人の長嶋茂雄や王貞治のようなスター選手が登場し、女性たちのプロ野球への認知度は急速に高まった。「ミーハー」女性ファンの萌芽も、1958（昭和33）年頃に既に見られている。このころのプロ野球選手は、まだ大衆文化における「みんなのスター」的な存在であった。

【第3章】

1980年代に起きたプロ野球選手のアイドルブーム現象を通して、1990年代前半までの女性ファンの動向を考察していく。

1988（昭和63）年には、女性向けプロ野球情報誌『プロ野球 ai』が創刊されている。本誌は、従来のジャーナリズム的視点から書かれたスポーツ雑誌とは異なり、「ジャニー

ズ系アイドル」や若手俳優を扱う「女性誌」と同等の存在だった。その読者も十代の女子中高生が中心で、男性とは異なる見方でプロ野球を楽しむ女性たちが増え始めた。その中には選手をアイドル化して追っかけを行う「ミーハー」だけでなく、「オタク」、「マニア」、「グルーピー」など、多種多様な女性ファンの存在が見てとれる。巨人中心のセ・リーグを支持する男性とは異なり、パ・リーグを中心に様々な選手に関心に移ろわせていくのが1980年代の女性ファンの特徴でもあった。

『プロ野球 ai』に見る人気選手の推移では、女性に支持される選手の特徴の変化もうかがえる。単に「容姿端麗で野球が上手い独身」の選手が人気者になれるわけではなく、1990年代前半からは「面白くて個性的」な選手が支持を集めるようになった。メディア環境の変化が選手のプライベートが見えるようになり、女性たちは野球の実力だけでなく人間性も含めて選手を観察するようになった。若者を中心に「私たちのアイドル」としてプロ野球選手が眼差され始めた時期である。

【第4章】

4章では、1990年代後半から現在にかけてのプロ野球の女性ファンの変遷をたどっていく。このころには選手に求められるのは「アイドル性」だけでなく、「尊敬できる人格者」であることなど、より人間性が重視されるようになっていく。また、インターネットの台頭などによって女性たちの嗜好は多様化していき、「私だけのアイドル」を求めるファン文化が主流になっていく。そして、球団側も観客動員数増加を狙って女性ファンを獲得しようと活発に動き始めた時期で

もある。

『プロ野球 ai』が獲得した新しい女性ファンは、男性とは異なる見方でプロ野球を見続けてきた。その特徴は、「選手同士の関係性」に注目していることである。単に選手をアイドル化して「ミーハー」に消費するだけでなく、むしろより「オタク」的に「選手同士の関係性」を眼差していることがその特徴として挙げられる。それは同じく1980年代頃から登場した「ジャニーズ系アイドル」や「やおい」を愛好する女性たちに共通する心性でもある。ファン同士の「関係性の快楽」を求め、かつて『プロ野球 ai』誌上で行われていた読者同士の交流は、今日ではインターネットに取って代わられている。

女性ファンという存在は、一般的に思われているよりも多様性を持つ存在である。また、「オタク」と「ミーハー」という嗜好性や文化圏が異なる共同体が共存・交錯する場として「スポーツ観戦」が位置づけられている。

【結章】

従来男性の領域とされていたプロ野球に女性ファンが参入すると、概して「ミーハー」ファンとしてみなされがちである。しかし、『プロ野球 ai』を中心に当時の女性たちの声を拾い上げると、その実態は一枚岩的に表象されるようなものではなかった。各時代において、年齢、職業、嗜好性などが異なる女性たちがそれぞれのやり方でプロ野球にコミットしていた。女性たちがプロ野球に求めていたものは、女性向けプロ野球情報誌『プロ野球 ai』に象徴的に表れていた。それは「男同士の関係性」への眼差しである。誌面構成も「選手間の関係性」を意識した作りになっている。今日では、「女同士の関係性」も各所で見られるようになってきている。